

授 業 概 要

科目名	臨床判断Ⅰ	担当者	西川 はるみ 荻須 雅美	開講時期	2年 前期	単位時間	15時間 1単位
ディプロマで目指す力		実践する力 思いやる力 責任と役割を果たす力 看護を探究する力					
学修内容	看護師は医療者として、あらゆる場での健康状態の判断や対応が求められる。そのためには、状況に応じた臨床判断能力と実践力が必要となる。そのため、臨床判断Ⅰでは、形態機能学、病態生理治療論などで学習した既習の知識を基に、臨床場面でよくある状況設定から、臨床判断モデルの「予期」「初期把握」「解釈」という思考過程から、看護に必要な臨床判断の思考をトレーニングをしていく。また、個々での学習や共同学習を通して、学び合う中で意志ある学びにつながる学習や看護に必要な協調性を養う機会にもしていきたい。						
到達目標	1. 既習の知識・技術を活用し、対象の状態を予期する。(予期) 2. 対象の状態を把握し、変化に気づける。(初期把握) 3. 対象の状態・変化を解釈し、対応を考えることができる。(解釈)						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1回	看護師に必要な臨床判断能力とは	(西川)	講義			
	第2回	臨床判断一気づきとその解釈―(事例1)	(西川)	講義・グループワーク			
	第3回	臨床判断一気づきとその解釈―(事例1)	(西川)	シミュレーション			
	第4回	臨床判断一気づきとその解釈―(事例1)	(西川)	講義・グループワーク			
	第5回	臨床判断一気づきとその解釈―(事例2)	(荻須)	講義・グループワーク			
	第6回	臨床判断一気づきとその解釈―(事例2)	(荻須)	シミュレーション			
	第7回	臨床判断一気づきとその解釈―(事例2)	(荻須)	講義・グループワーク			
	第8回	試験(45分)	(西川)	筆記試験			
成績評価	・方法 筆記試験40%、取り組み姿勢・成果物60%						
事前課題・留意点	・事前課題が出た際には、必ず取り組んで来てください。 ・演習では、個人が積極的に学習し、他者の意見を尊重し合い、患者・看護への関心と学びを深め、自己の生活援助技術能力の向上を目指してほしいと思います。						
テキスト・必要物品	・テキスト 香春知永他著：系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 基礎看護学，医学書院。 高木永子監修：New看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント，Gakken. 他多数 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 熊谷たまき他監修：フィジカルアセスメントがみえる 第1版，メデックメディア。						
参考文献	臨床判断・臨床推論に関連した書籍 複数 看護技術・看護方法に関する書籍 複数						

授 業 概 要

科目名	臨床判断Ⅱ	担当者	實石江里子 後藤泰子	開講時期	2年後期	単位時間	15時間 1単位
ディプロマで目指す力		実践する力					
学修内容	看護師は、あらゆる場での健康状態の判断や対応が求められる。そのためには、状況に応じた臨床判断能力と実践力が必要である。臨床判断Ⅱでは、臨床判断Ⅰでの学びを基に、臨床判断モデルの思考過程から、看護で求められる臨床判断の思考と実践方法について学ぶ。さらに、臨床を想定した状況設定の実施とその省察から、自己の課題を明らかにし、その経験を積み重ねることで、看護の経験知へとつなげていく。						
到達目標	1. 対象の状態の予期から、対象の状態・変化を適切に解釈する。 2. その場の状況から、適切に判断し、コミュニケーションを図りながら対応する。 3. 自己の看護実践を振り返り、実施の評価と自らの行為について省察する。						
授業計画	授業テーマ					方法（形成評価等を含む）	
	第1回	講義オリエンテーション、受け持ち患者を捉える（患者Aさん）	（實石）	講義	グループワーク		
	第2回	臨床判断モデルを活用し看護実践を考える（患者Aさん）	（實石）	シミュレーション演習			
	第3回	受け持ち患者を捉える（患者Bさん）	（實石）	グループワーク			
	第4回	臨床判断モデルを活用し看護実践を考える（患者Bさん）	（實石）	シミュレーション演習			
	第5回	受け持ち患者の理解をさらに深める 客観的臨床能力試験（OSCE）の説明	（實石）	講義			
	第6・7回	客観的臨床能力試験（OSCE）	（後藤、他）	OSCE			
	第8回	臨床判断における自己の課題の明確化（45分間）	（後藤）	講義			
成績評価	・方法 演習参加度・成果物：35点、OSCE：65点（配点については、変更の可能性があります）						
事前課題・留意点	・事前課題 その都度指示します ・留意点						
テキスト・必要物品	・テキスト・系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学，医学書院 ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進，医学書院 ・香春知永 著：系統看護学講座 専門基礎分野 基礎看護学，医学書院 ・高木永子 監修：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント，学研メディカル 秀潤社 ・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	臨床判断Ⅲ	担当者	橋本圭子 石間香里	開講時期	3年前期	単位時間	15時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護師は、あらゆる場での健康状態の判断や対応が求められる。そのためには、状況に応じた臨床判断能力と実践力が必要である。臨床判断Ⅲでは、臨床を想定した場面から、その場で必要な看護を状況判断し、実践する。その実践を、臨床判断モデルを活用しながら振り返り、どのような実践が必要であったのか、自らの思考過程を明らかにしながら考える。その経験を積み重ねることで、自己の課題を明確にし、看護の経験知へとつなげていく。 卒業時の技術到達レベル 単独できる：精神的安寧を保つためのケア						
到達目標	1. 臨床を想定した場面から、必要な対応を考え、実践する。 2. 実践した援助を、臨床判断モデルに基づき振り返り、看護者に必要は判断力を養う。 3. 自己の看護実践の振り返りから、看護実践の課題を明らかにする。						
授業計画	授業テーマ 1. 臨床判断と実践 (橋本) 2. 状況設定1に関する検討 (橋本) * 事例設定の中で、安楽の促進・苦痛のためのケアを想定する 3. 状況設定1のシミュレーション演習 (橋本) 4. 状況設定演習1のシミュレーションの再検討 (橋本) 5. 状況設定2に関する検討 (石間) 6. 状況設定2のシミュレーション演習 (石間) 7. 状況設定演習2のシミュレーションの再検討 (石間) 8. 試験(45分) (橋本)						方法 (形成評価等を含む) 講義 グループワーク 校内演習・グループワーク 校内演習・グループワーク 校内演習・グループワーク 校内演習・グループワーク 校内演習・グループワーク
成績評価	・方法 筆記試験 30% 取り組み姿勢・成果物 70% (橋本40%・石間30%)						
事前課題・留意点	・事前課題 その都度指示します ・留意						
テキスト・必要物品	・テキスト ・系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学, 医学書院 ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進, 医学書院 ・香春知永 著 : 系統看護学講座 専門基礎分野 基礎看護学, 医学書院 ・高木永子 監修 : 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, 学研メディカル 秀潤社 ・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅰ	担当者	石間 柳原 増田 香里 泰子 瑞枝	開講時期	1年前期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	看護師が行う看護の対象は、療養者を含めた地域で暮らす人々であり、また療養の場の拡大により看護を提供する場も拡大している。本単元では、地域で暮らす人々を理解するとともに、人々が支えあって生きることの大切さを学ぶ。ライフステージ各期にある人々の暮らし、家族と暮らしの関係を理解するとともに、環境・生活・健康の関連性について学ぶ。						
到達目標	1) 地域の人々の暮らしの場を理解する。 2) 地域の人々の暮らしと家族の関係を理解する。 3) 自分達が暮らす地区における自治活動に参加することができる。 4) 地域で暮らす人々の環境・生活・健康の関連性を理解する。						
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：暮らしとは（石間）			GW 事前・事後課題評価あり			
	第2回：暮らしの基盤となる地域とは～焼津市・藤枝市～（柳原）			GW 事前・事後課題評価あり			
	第3回：暮らしと地域を理解するための考え方～地域社会と人々の生活～（柳原）			GW（マップ作成）事前・事後課題評価あり			
	第4回：人々の生活と健康～担当地区の人々（小児期～老年期各期の特徴）（柳原）			GW/講義 事前・事後課題評価あり			
	第5回：自分達が暮らす地区を知る①フィールドワーク計画書作成（増田）			GW			
	第6回：自分達が暮らす地区を知る②フィールドワークの学びの共有（増田）			GW 課題評価あり			
	第7回：自分達が暮らす地区を知る③（石間）			GW/講義			
	第8回：自分達が暮らす地区を知る④環境・生活・健康の関連性（石間）			GW			
	第9回：自分達が暮らす地区を知る⑤環境・生活・健康の関連性（石間）			GW			
	第10回：グループワークの発表（柳原）			発表			
成績評価	・方法：最終レポート（40点）フィールドワーク課題評価（20点）課題評価・提出物振り返り等取り組み姿勢（40点）で評価します。 筆記試験はありません。 ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・事前課題：夏季休暇を利用し、自分達が暮らす地区のフィールドワークをしましょう。地域の自主活動にも参加してみましょう。 ・留意点：地域にはどのような社会資源・自主活動があるのか興味を持って調べてみましょう。健康との関連性を考えてみよう。						
テキスト	・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤―地域・在宅看護論1, 医学書院 ・必要物品						
参考文献	木下由美子編：Essentials地域看護学 第2版, 医歯薬出版社. 厚生統計協会：厚生 の指標臨時増刊号 国民衛生の動向. 木下由美子編：在宅看護論 新版, 医歯薬出版社. 秋山正子：つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア 医学書院 長江弘子編：生活と医療を統合する継続看護マネジメント第2版 医歯薬出版社						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅱ	担当者	吉田 五百枝 増田 瑞枝	開講時期	2年後期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	地域の人の健康と暮らしを支える看護を実践するためには、共に支える役割をもつ保健・医療・福祉に関する他の職種の理解を深め、地域包括ケアシステムを活用した専門職間の連携、協働の意義と概念を理解することが不可欠である。そのため、様々な場で展開される地域・在宅看護実践について学んだ上で、他の専門職の役割を尊重し協働することを学ぶ。特に本単位では、他の専門職を目指す学生との意見交換の場に臨み、実際的な他職種連携・協働に向けて良好な関係作りができるコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	1) 保健・医療・福祉に関わる各専門職種の基本概念や関係法規、役割を理解する。 2) 地域包括ケアシステムの意義と概念を理解する。 3) ネットワーク図の作成を通してケアマネジメントの考え方と連携について理解する。 4) 専門職連携演習において他の専門職の専門性や役割、看護との協働について理解を深める。 5) 多職種を尊重した相互関係を築けるよう、看護職としての役割と姿勢を理解する。						
授業項目	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1回：様々な場で展開される地域・在宅看護実践（訪問・通所・短期入所） 共に支える各専門職の目的や特殊性（基本概念等）（増田） 第2回：地域包括ケアシステムの意義と概念、マップ作製（増田） 第3回：地域ネットワーク図（吉田） 第4回：専門職連携演習①演習リエンション（吉田） 第5回：専門職連携演習②症例共有 静福大生と対面（吉田） 第6回：専門職連携演習③必要な看護と他職との連携・協働を計画する学内（増田） 第7回：専門職連携演習④必要な看護と他職との連携・協働を計画する学内（増田） 第8回：専門職連携演習⑤介護・看護を学ぶ学生間で療養者支援の連携を考える静福大生リモート（吉田） 第9回：専門職連携演習⑥療養者支援の連携を考える 静福大生と対面（吉田） 第10回：専門職連携演習⑦（他職を尊重する看護師の姿勢とは）（増田）				講義/GW 課題評価（5点） 講義/GW 課題評価（5点） 演習（授業および実習後10点） GW/講義（課題評価15点） GW 意見交換 GW 課題評価（10点） GW 意見交換（10点） 意見交換・発表 GW 発表（5点）		
成績評価	・方法：最終レポート（40点）演習評価、提出物、振り返り等取り組み姿勢（60点）で評価します。 ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・事前課題 1年次看護学概論で学習した多職種についての学習資料を復習して臨みましょう。 ・留意点 静岡福祉大学の学生さんと交流します。大学に出向いて学習しますので、マナーや礼儀を守って行動しましょう。						
テキスト	・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤―地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、医学書院 ・必要物品 看護学概論で調べた資料や学習ファイル						
参考文献	木下由美子編：Essentials地域看護学 第2版、医歯薬出版社。 厚生統計協会：厚生指針臨時増刊号 国民衛生の動向。 秋山正子：つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア 医学書院。						

授業概要

科目名	地域・在宅看護論Ⅲ	担当者	石間香里 柳原泰子 小林有希子 朝比奈結華	開講時期	2年前期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	少子超高齢社会の到来、疾病構造の変化、健康や療養の考え方の多様化などにより、医療を提供する場は施設から地域社会へとその範囲を広げ、更には在宅療養へと移行していく方向にある。本単元では、地域・在宅看護の対象者とその家族について理解し、地域における暮らしを支える看護の役割について学ぶ。また、健康課題を持ちながら地域に暮らす人々に対する切れ目のない看護の提供について学ぶ。						
到達目標	1) 地域・在宅看護に関わる現状を踏まえ、地域における暮らしを支える看護の概念と目的を理解する。 2) 地域・在宅看護の対象者とその家族を理解する。 3) 地域・在宅看護の特徴を理解する。 4) 看護の継続性について考えることができる。						
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：暮らしを支える地域・在宅看護（石間）			講義			
	第2回：地域・在宅看護の対象者（小林）			講義			
	第3回：家族の理解（小林）			講義			
	第4回：地域・在宅看護の特徴①（小林）			GW/講義		課題評価あり	
	第5回：地域・在宅看護の特徴②（小林）			GW/講義		課題評価あり	
	第6回：看護の継続性（柳原）			講義			
	第7回：地域・在宅看護の歴史と訪問看護の現状（朝比奈）			GW/講義		課題評価あり	
	第8回：地域・在宅看護の背景と暮らしにおけるリスクマネジメント（柳原）			GW/講義		課題評価あり	
	第9回：地域・在宅看護における意思決定支援と権利保障（柳原）			GW/講義			
	第10回：学科試験（石間）			講義			
成績評価	・方法：筆記試験・課題評価（小林先生40点 朝比奈先生5点 柳原40点 石間15点） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・事前課題 ・留意点 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護実習Ⅰで学んだ「暮らしの基盤としての地域の理解」を基に、地域・在宅看護に求められる役割について深く考えていきましょう。						
テキスト	・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤―地域・在宅看護論Ⅰ，医学書院 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実践―地域・在宅看護論Ⅱ，医学書院 ・必要物品						
参考文献	厚生統計協会：厚生の指標臨時増刊号 国民衛生の動向。 木下由美子編：在宅看護論 新版，医歯薬出版社。 杉本正子、眞船拓子編集：看護師教育のための地域看護概説～公衆衛生看護を含む地域看護に取り組むために～，ヌーヴェルヒロカワ 長江弘子編：生活と医療を統合する継続看護マネジメント第2版 医歯薬出版社						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅳ	担当者	篠原彰 三輪一太 東野定律 池田真紀 朝比奈結華 石間香里	開講時期	2年前期	単位時間	30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力				
学修内容	本単元では、地域・在宅看護の実践にあたり、関連する制度を広く学びその活用について理解するとともに、在宅医療の現状と課題、訪問看護の実際を学ぶことで看護の果たす役割を学ぶ。長い期間を通して暮らしを支えるために、社会保障制度に基づき様々な形で看護サービスを提供していることを理解する。地域・在宅看護マネジメントや地域・在宅看護活動の創造について学ぶ。						
到達目標	1) 地域・在宅看護に関わる在宅医療の現状と課題が理解できる。 2) 地域包括ケアの現状について理解する。 3) 訪問看護活動の実際について理解する。 4) 社会資源と地域・在宅看護に関わる法的制度を理解する。 5) マネジメントの考え方や地域・在宅看護マネジメントについて理解する。						
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：在宅医療の現状と課題（篠原）			講義	レポートあり		
	第2回：超高齢社会における医療の変化「治す医療」～「支える医療」へ（三輪）			講義	レポートあり		
	第3回：在宅療養の現状と在宅医療（三輪）			講義			
	第4回：在宅医療・介護における地域包括ケアシステム（東野）			講義			
	第5回：訪問看護の対象者・導入の流れ（介護保険医療保険の違い、アセスメント等）（池田）			講義	レポートあり		
	第6回：訪問看護の手順と実際（災害対策、ターミナルケア、活動・療養環境調整等）（池田）			講義			
	第7回：地域の社会資源（石間）			GW/発表			
	第8回：社会資源と法的制度（石間）			GW/発表/講義			
	第9回：社会資源と法的制度の活用（石間）			講義			
	第10回：社会資源と地域ケア（朝比奈）			講義			
	第11回：地域を取り巻く保健・医療・福祉サービス（朝比奈）			講義			
	第12回：地域・在宅看護マネジメントと多職種連携・多職種チームでの協働の実際（朝比奈）			講義			
	第13回：介護保険制度上のケアマネジメントの考え方（朝比奈）			GW/講義			
	第14回：地域・在宅看護活動の創造（朝比奈）			講義			
	第15回：学科試験（石間）						
成績評価	・方法：筆記試験（朝比奈先生40点・石間30点）GW参加度と発表内容（20点）春季休暇・第1・2・5回レポート課題提出状況（10点） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・事前課題 春季休暇時自分の住む地域の社会資源（保健・福祉）についてレポートを提出する。 ・留意点 地域の社会資源と法的制度を具体的に結び付けながら、地域包括ケアの理解を深めてほしい。						
テキスト	・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤―地域・在宅看護論Ⅰ，医学書院 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実践―地域・在宅看護論Ⅱ，医学書院 ・必要物品 第7回GW時に、レポート作成のために使用した社会資源の資料を持参すること。						
参考文献	厚生統計協会：厚生指針臨時増刊号 国民衛生の動向. 訪問看護実務相談, 全国訪問看護協会 小島操子他：看護のコツと落とし穴 森元陽子：訪問看護という生き方, 幻冬舎 押川真喜子監修：写真でわかる訪問看護, インターメディカ 木下由美子編：Essentials地域看護学 第2版, 医歯薬出版社.						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅶ	担当者	石間香里 西川はるみ	開講時期	2年前期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	暮らしの場で看護援助を提供するための心構えを理解し、個々の生活スタイルを考慮したうえで、人々とその家族を視野に入れた個別性のある援助が求められている。また、看護師は対象者の心身の状態を正しく把握し、適切な判断と処置を行っていく必要がある。そして、在宅での医療行為は、基本的に対象者、家族が行うことになるため、対象者と家族が安心して在宅療養生活を継続できるような教育・指導を行う必要がある。 この単位では、基礎看護技術の原理原則を踏まえながら、対象者の希望する暮らしを支える日常生活援助技術と医療的ケアについて学ぶ。						
到達目標	1) 地域・在宅看護技術の基本的な考え方を理解できる。 2) 地域・在宅看護における対象者や家族への生活支援の方法と技術を理解する。 3) 基礎看護技術を応用・工夫し、対象者に合った地域・在宅看護技術を考え、実践することができる。 4) 医療的ケアのある対象者・家族への援助が理解できる。 卒業時技術到達レベル 指導の下で実施できる 7ー排泄援助 22ーシャワー浴介助 30ー酸素吸入療法の実施 35ー褥瘡予防ケア 実施困難の場合は見学する 35ー褥瘡予防ケア						
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	<日常生活援助>第1～5回 西川 第1回：暮らしの場で看護するための基本姿勢とコミュニケーション技術 第2回：暮らしの場における清潔・衣生活とその援助（シャワー浴） 第3回：暮らしの場における清潔・衣生活とその援助（シャワー浴） 第4回：暮らしの場における排泄とその援助（排便） 第5回：暮らしの場における排泄とその援助（排便） <医療的ケア>第6～10回 石間 第6回：地域・在宅看護における栄養管理とケア 第7～8回：地域・在宅看護における呼吸管理とケア 第9回：地域・在宅看護における排泄管理とケア 第10回：地域・在宅看護における褥瘡予防とケア 第11回：学科試験			講義・校内演習 課題評価あり 講義・GW 校内演習A・Bグループ別 講義・校内実習 校内演習A・Bグループ別 講義/演習 講義・校内実習 帝人による説明・体験 講義/演習 講義/演習			
成績評価	・方法：筆記試験70点（西川15点、石間55点）、課題評価と提出状況30点（西川10点、石間20点） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・事前課題 演習前の事前課題あり。授業前に提示する。 ・留意点 全ての領域を含んでいます。今までの知識を用いて応用や工夫をして楽しみながら看護を考えていきましょう。 第3回、第5回の演習はABに分かれる。						
テキスト	・テキスト 押川眞喜子監修：写真でわかる訪問看護, インターメディカ 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実践ー地域・在宅看護論Ⅱ, 医学書院 ・必要物品 校内実習時に必要な物品を準備する。						
参考文献	杉本正子、眞船拓子編集：在宅看護論ー実践を言葉に一第6版, ヌーヴェルヒロカワ 三浦規他：ケアのこころシリーズ⑩在宅でのケア, インターメディカ. 木下由美子編：在宅看護論 新版, 医歯薬出版社. 角田直枝編集：スキルアップのための在宅看護マニュアル, 学習研究社. 川村佐和子：組織力を高める在宅ケア高度実践術, 日本看護協会出版社.						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅵ	担当者	石間 香里	開講時期	2年後期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	地域・在宅看護の対象者の背景は多様であり、様々な健康レベルにある。対象者・家族の「生きること」を支えるためには、ひとりひとりの生き方に応じた医療とケアを独創性をもって提供することが求められる。本単元では、地域・在宅における状態別・時期別の看護を理解し、地域・在宅看護の展開について学ぶ。						
到達目標	1) 地域・在宅における主な状態別・時期別の看護が理解できる。 2) 地域・在宅における看護過程の視点・展開が理解できる。 卒業時授業到達レベル 単独で実施できる 17—自動・他動運動の実施						
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：地域・在宅看護過程の特徴感染症のある対象者への援助 第2回：寝たきりの在宅療養者への看護 第3回：認知症高齢在宅療養者への看護 第4回：ターミナル期にある在宅療養者への看護 第5回：難病の在宅療養者への看護 第6～9回：地域・在宅看護過程の展開方法 第10回：講義 学科試験			講義 講義・演習 講義 講義 講義 第6回：個人ワークで「ネットワーク図」「私の捉えた療養者」を作成 第7,8回：個人ワーク記録物を基にGW実施第9回発表 講義			
成績評価	・方法：筆記試験 55点 課題評価（「ネットワーク図」10点「療養者のアセスメント」15点「私の捉えた療養者」10点）GWの参加状況と発表内容（10点） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・留意点 地域・在宅看護論Ⅲ～Ⅴの授業内容を復習して講義に臨んでください。						
テキスト	・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実践—地域・在宅看護論Ⅱ, 医学書院						
参考文献	杉本正子、眞船拓子編集：在宅看護論—実践を言葉に—第6版, ヌーヴェルヒロカワ 杉本正子、眞船拓子編集：看護師教育のための地域看護概説～公衆衛生看護を含む地域看護に取り組むために～, ヌーヴェルヒロカワ 木下由美子編：在宅看護論 新版, 医歯薬出版社. 角田直枝編集：スキルアップのための在宅看護マニュアル, 学習研究社						

授業概要

科目名	成人看護学Ⅰ 成人看護学総論	担当者	片山 聖治 保健師	開講時期	1年後期	単位 時間	20時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力		思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	身体的に成長・成熟・衰退へと変化し、精神(スピリチュアル)・心理・社会的に独立し社会的期待も大きく自立し、自律する成人の発達段階的な特徴や生活上の役割を理解し、この時期にある人に起こる健康障害について理解する。 また、成人期にある人の健康の維持、増進、疾病予防(健康回復)に向けて重要な支援について理解し、必要な看護を深める。自己実現を目指して健康を維持した生活と健康のつながりや健康障害への影響について理解する。						
到達目標	1. 成人看護学における成人期のそれぞれの発達段階の特徴を理解する 2. 成人期における身体的・心理的・社会的特徴を実際の関わりから理解を深める 3. 成人期にある人の生活と健康の関連や健康障害について理解を深める 4. 成人期にある人への健康教育(保健指導)の視点を理解する 5. 成人期にある人がさらに健康増進できるような支援について理解する						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1,2回: 成人期にある対象の理解			〔 片山 〕 講義			
	第3～5回 成人期にみられる健康問題			〔 片山 〕 講義・グループワーク・発表			
	第6,7回: 成人期の健康問題① ②			〔 片山 〕 講義			
	第8,9回: 成人期にある人への保健活動の実際			〔 保健師 〕 講義			
	第10回: 試験			〔 片山 〕			
成績評価	・方法 筆記試験とレポート2種類 点数配分: 健康問題レポート20点、インタビューレポート10点、グループワーク参加度10点、筆記試験60点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 夏季休暇には本単元で扱う内容についての課題を出します(評価対象になります)。新聞記事を使用するため、購読していない人は、購読している人に頼むなど、使えるよう自分で準備をして下さい。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 ・必要物品						
参考文献							

授業概要

科目名	成人看護学Ⅱ	担当者	片山 聖治 橋本 圭子	開講時期	2年前期	単位 時間	20 時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・看護を探究する力					
学修内容	患者が健康を害した時、まず最初に様々な症状を自覚する。患者の症状や訴えから何が起きているかを考え、今後何が起きるかを予測し、今起きている症状を緩和するための看護を実践している。そこで、症状緩和となる治療とその看護について学ぶ。						
到達目標	1. 患者に起きている症状(異常)に「気づく」ことができる 2. 症状におけるアセスメントから援助の過程を理解できる 3. 患者の状況に合わせて行われる治療を理解し、必要な看護を考えることができる 4. 患者の苦痛を最小限にするための看護に必要な臨床判断について学ぶ						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1～3回：呼吸に関連する症状を示す対象への看護 （呼吸困難・チアノーゼ）			〔 片山 〕 講義・グループワーク			
	第4～6回：排泄に関連する症状を示す対象への看護 （下痢・下血・便秘）			〔 橋本 〕 講義・グループワーク			
	第7～9回：安楽に関連する症状を示す対象への看護 （悪心・嘔吐・吐血）			〔 片山 〕 講義・グループワーク			
	第10回： 試験			〔 片山 〕			
成績評価	・方法 筆記試験 75% 取り組み姿勢 25% 筆記試験の点数配分は、片山 50点 橋本 25点。取り組み姿勢の配分は片山 16点 橋本9点です。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点						
テキスト・必要物品	・テキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2]呼吸器 [5]消化器 [7]脳・神経, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院 ・高木永子監修:看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken ・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅲ	担当者	片山 聖治 大石 祐子 石川 智也 浅野 太志 長坂 信次郎 藤田智和 河原崎まどか	開講時期	2年前期	単位 時間	30時間 ／1単位	
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・看護を探究する力						
学修内容	身体侵襲が高く生命の危機的状態にある人へ、回復の促進及び異常の早期発見について理解し、援助するための看護を学ぶ。さらに、このような状態にある人、その人を取り巻く人々の思いや立場を考えた支援について学ぶ。							
到達目標	1. 健康危機状態にある成人の身体的・心理的特徴を理解する 2. 健康危機的状態にある患者の状態を把握する視点や必要な看護援助を考える 3. 手術侵襲に対する生体反応と回復過程を理解する 4. 身体侵襲を受けた人の身体的・心理的・社会的な特徴を理解する 5. 手術後の身体的・心理的変化を受け止め、生活を支援する看護を考える 卒業時の技術到達レベル: 12 ストーマ管理 実施困難な場合は見学する							
授業計画	授業テーマ					方法（形成評価等を含む）		
	第1、2回:	クリティカルケア(重症集中ケア)総論	〔 大石 〕			講義		
	第3回:	救急看護	〔 長坂先生 〕			講義		
	第4～6回:	救命救急治療を必要とする状況	〔長坂先生			講義		
		虚血性心疾患の急性期看護（第5・6回はシミュレーション）	・藤田先生〕			校内実習		
	第7回:	クリティカルケア(重症集中ケア)を必要とする人への看護	〔 片山 〕			講義		
	第8回:	手術療法を受ける患者の特徴	〔 片山 〕			講義		
	第9回:	手術療法を受ける患者の理解と看護の実際	〔 浅野先生 〕			講義		
	第10、11回:	手術療法を受ける患者の理解と看護の実際	〔 石川先生 〕			講義		
	第12、13回:	人工肛門造設患者の看護	〔 河原崎先生 〕			講義		
		(術前～術直後)(回復期～退院後の生活)						
	第14回:	人工肛門(ストーマ装具)についての説明、ストーマ装具交換の実践				校内実習		
	第15回:	試験	〔 大石 〕					
	成績評価	・方法	筆記試験 試験の点数配分は、藤田先生 25点 石川先生 25点 河原崎先生 25点 片山 25点 合計100点です					
		・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題							
	・留意点	授業中、テキストに大切なことを書き込んだり、線を引いたり、付箋を貼ったりして、学習したことを臨地実習でスムーズに活用できるよう工夫をして質問してください。予習もちろん大切ですが、復習を十分に行なってください。わからないところ積極的に質問してください。						
テキスト・必要物品	・テキスト	・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院 ・井上智子編集: パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ, 照林社 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3]循環器, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 救急看護学, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院						
	・必要物品	・校内実習の時は、ポロシャツとジャージで出席してください。 ・人工肛門(ストーマ装具)に関する校内実習では、ストーマ装具・剥離剤を持参して下さい。ストーマモデル・ストーマはさみも使用します。						
文献参考	・安酸史子ほか編集: ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版							
	・高木永子監修: 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken							

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅳ	担当者	大石 祐子 秋山 美幸 遠藤 みき	後藤 泰子 法月 裕哉 伊東 絵里香	開講時期		2年後期	単位 時間	30 時間 ／1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力・看護を探究する力							
学修内容	健康障害によって生活の変化を余儀なくされた人の状態、状況を理解し、セルフケアや自己管理を促進するような看護を理解する。他職種と連携し、その人の能力を活かして生活できるよう具体的な支援を学ぶ。								
到達目標	1. 既習の知識を活用し、セルフマネジメントを必要としている成人の状況を理解する。 2. セルフマネジメントを獲得しようとする人への看護の実践を学ぶ。 3. セルフケア低下状態にある成人を理解する。 4. セルフケア再獲得を支援するチームアプローチの必要性と看護師の役割を学ぶ。 5. セルフケア再獲得を目指す人への看護の実践を理解する								
授業計画	授業テーマ 第1回： 慢性期看護総論 [大石] 第2～4回： 内部環境調節機能障害のある患者への看護(糖尿病) [大石] 第5～7回： 自己免疫性疾患のある患者への看護 [後藤泰] (膠原病・全身性エリテマトーデス) 第8～10回： 脳・神経機能障害のある人への看護(脳血管障害) [秋山先生] 第11回： 理学療法の実践 [法月先生] 第12回： 作業療法の実践 [伊東先生] 第13回： 言語療法の実践 [遠藤先生] 言語障害の種類(失語症・構音障害・難聴)と特徴、嚥下障害 言語障害や嚥下障害の対応方法 第14回： セルフケア再獲得を支援するための看護 [大石] 第15回： 試験 [大石]						方法（形成評価等を含む） 講義 講義・グループワーク 講義・グループワーク 講義・グループワーク 講義 講義 講義 講義		
成績評価	・ 方法 筆記試験 試験の点数配分は、大石 40点 後藤泰 30点 秋山先生 30点 合計100点です。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。								
事前課題・留意点	・ 事前課題 事例を用いて、授業を行っていきます。授業項目に書かれている疾患に関わる臓器の正常な機能や、疾患により現れる症状とのつながり、必要な検査や治療の根拠を事前に学習しておいてください。 ・ 留意点								
テキスト・必要物品参考文献	・ テキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6]内分泌・代謝 [7]脳・神経 [11]アレルギー・膠原病感染症, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院 ・ 必要物品 ・安酸史子ほか編集: ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論, メディカ出版。								

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅵ	担当者	片山 聖治 大石 祐子	開講時期	2年前後期	単位 時間	30時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力・看護を探究する力					
学修内容	この科目では、健康障害のある成人への看護実践の思考の習得を目指している。 事例を用いて、成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴から健康障害の起きた理由を捉え、その人の力を活かし健康の回復増進へと支援する看護ができる能力を養う。						
到達目標	1. シミュレーションで事例患者の状態観察を実践できる 2. 事例を通して、なぜその状況が起きているのかを考え、看護上の問題を表現する 3. 既習の知識を活用し、成人期の特徴を踏まえた個別性のある看護を考えることができる 4. 事例の個別性を踏まえ、看護の方向性を考えることができる 卒業時の技術到達レベル: 4 食事指導 36 創傷処置(創洗浄・創保護) 37 ドレーン類の挿入部の処置 実施困難な場合は見学する						
授業計画	授業テーマ 第1回: 事例展開(慢性腎不全) 病態・症状・情報の整理 [大石] 第2回: 状態観察シミュレーション [大石] 第3回: 状態観察シミュレーション [大石] 第4回: 状態観察シミュレーション [大石] 第5回: 看護計画立案 グループワーク [大石] 第6回: 看護計画発表 グループ内発表 [大石] 第7回: まとめ [大石] 第8回: 事例展開(周術期胃がん患者) 病態・症状・情報の整理 [片山] 第9回: 状態観察・看護援助実践 シミュレーション [片山] 第10回: 状態観察・看護援助実践 シミュレーション [片山] 第11回: 状態観察・看護援助実践 シミュレーション [片山] 第12回: 看護計画立案 グループワーク [片山] 第13回: 看護計画発表 グループ内発表 [片山] 第14回: 看護実践シミュレーション [片山] 第15回: 試験 [片山]						方法(形成評価等を含む) 講義 演習 演習 演習 グループワーク 講義・グループワーク 講義・グループワーク 講義 演習 演習 演習 グループワーク グループワーク 演習 講義・グループワーク
評価	・方法 筆記試験50%(片山25点 大石25点) 取り組み姿勢・提出物50%(片山25点 大石25点) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 事前に病態の理解を深め、患者の病態に対して必要な情報は何かを明らかにしておく。看護過程は自己課題となるため次回までに情報を整理しアセスメントを各自進めて参加すること。 ・留意点 グループワーク中心の授業です。積極的に参加しましょう。 シミュレーション演習の際は、ポロシャツとジャージで出席してください。						
テキスト・必要物品	・テキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器 [8]腎・泌尿器 , 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ [4]臨床看護総論, 医学書院 ・高木永子監修:看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken ・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	老年看護学Ⅰ	担当者	杉淵美里 後藤泰子 保健師	開講時期	1年後期	単位時間	25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力 思いやる力 地域社会に貢献する力					
学修内容	私たちがまだ経験したことのない老いを生きる高齢者に対する理解を深め、高齢者がそれぞれの健康レベルや状況に適応し、自立した生活を獲得して生の完成をはかれるように援助できる能力を養う。老年期にある人々の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、高齢者の生活の現状を、高齢者を取り巻く社会の視点を通して理解する。						
到達目標	1. 老年期の加齢に伴う身体・心理・社会的変化の特徴を理解する。 2. 生きてきた背景を理解し、高齢者の生活と健康について理解する。 3. 高齢者を取り巻く社会の変化と、高齢者と家族のつながりを理解する。 4. 保健医療と福祉制度に関する概要について理解する。						
	〈卒業時の技術到達レベル〉 単独で実施できる 14. 歩行・移動介助						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1回 ガイダンス 老年者を知る（杉淵） 第2回 老年期の発達と成熟（杉淵） 第3回 加齢に伴う身体・心理・社会的変化と健康障害①（後藤泰） 第4回 加齢に伴う身体・心理・社会的変化と健康障害②（後藤泰） 第5回 加齢に伴う身体・心理・社会的変化と健康障害③（後藤泰） 第6回 高齢者疑似体験（杉淵） 第7回 高齢者の生活と健康（杉淵） 第8回 高齢社会における保健医療福祉（杉淵） 第9回 高齢者の権利擁護（杉淵） 第10回 地域における老人保健医療と介護保険の現状（保健師） 第11回 老年看護の特徴 自立支援・理論（杉淵） 第12回 高齢者のセクシュアリティ 老年看護の役割（杉淵） 第13回 試験45分（杉淵）				講義 講義 グループワーク グループワーク発表 講義 校内実習 講義 講義・グループワーク 講義 講義 講義 講義・グループワーク 筆記試験		
成績評価	・方法 筆記試験 70点（杉淵：45点 後藤：25点） グループワークの成果物・課題提出 30点（杉淵：20点 後藤：10点） ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 「高齢者のすごいところを紹介します」のテーマでレポートを作成してもらいます。 ①高齢者へのインタビュー ②新聞記事や雑誌等から見つける ①②どちらでも可 詳細は夏休み前に説明します。 ・留意点 第6回は動きやすい服装で校内実習に臨みましょう。実習委員は準備に協力してください。 高齢者に関する日々のニュースや報道に関心を持ちましょう。 グループワークを取り入れながら講義を行うため、積極的に意見交換しましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 ・必要物品 第6回 雑誌や新聞、財布と小銭などを持参してもらいます。 詳細は授業が近くなったら担当教員より説明します。						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学の各系統 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害 南江堂						

授 業 概 要

科目名	老年看護学Ⅱ	担当者	前田信吾 秋山訓通 鈴木洋司	開講時期	2年前期	単位時間	15時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力 看護を探究する力					
学修内容	高齢者は加齢に伴う身体機能の変化により、成人と比較して罹患しやすくなる疾患がある。また、老年症候群のように日常生活の中に潜む健康障害も既往疾患を増悪させ致命的な状態を引き起こすことがある。このように、微妙なバランスの上に立つ高齢者の健康状態を理解し、高齢者特有の疾患の成り行きを、看護の視点を通して学ぶ。						
到達目標	加齢に伴う身体機能の変化によっておこる高齢者の代表的な疾患（循環器、腎・泌尿器、内分泌・代謝機能、消化器、脳、呼吸器系、老年症候群）の特徴をふまえ、その病態・症状・治療・予後・予防法について理解する。						
授業計画	授業テーマ				方法(形成評価等を含む)		
	第1回 循環器機能の低下によっておこる疾患（前田）				講義		
	第2回 腎・泌尿器の機能低下によっておこる症候・疾患（前田）				講義		
	第3回 内分泌・代謝機能の低下によっておこる症候・疾患（前田）				講義		
	第4回 消化器機能の低下によっておこる疾患（前田）				講義		
	第5回 呼吸器系感染症疾患（秋山） 誤嚥性肺炎、レジオネラ、MRSA など				講義		
	第6回 老年症候群、長期臥床によっておこる症候・疾患（秋山） 脱水、熱中症、低栄養、褥瘡、廃用症候群 など				講義		
	第7回 脳の変性疾患 <3時間>（鈴木） ①認知症とは何か 意識障害やせん妄とどう違うのか ②パーキンソン病について 基本的な理解				講義		
成績評価	・方法 筆記試験 前田先生：50点 秋山先生：30点 鈴木先生：20点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 興味をもって授業に臨んでください。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 ・必要物品						
参考文献	カラー版 老年医学 系統講義テキスト 日本老年医学会編集 西村書店						

授業概要

科目名	老年看護学Ⅲ	担当者	八木寿乃 後藤泰子	中村明美 杉渕美里	開講時期	2年前期	単位時間	30時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力			思いやる力 実践する力			社会貢献		
学修内容	老化による身体的・心理的・社会的機能の低下を考慮しながら、基礎看護学で学んだ日常生活援助の技術や老年看護学Ⅰ・Ⅱで身につけた知識を基盤に、高齢者に適した方法で自立を促せるような看護方法を学ぶ。また、高齢者に起こりやすい健康問題とその看護方法、高齢者の健康段階に応じた福祉施設における看護の機能や役割を学ぶ。さらに、認知症高齢者に対する理解を深め、認知症看護のあり方を学ぶ。							
到達目標	1. 高齢者の日常生活における基本的看護の方法について理解する。 2. 高齢者に起こりやすい健康障害について理解し、その予防と看護方法について理解する。 3. 介護福祉施設における看護の役割と機能について理解する。 4. 認知症高齢者の理解を深め、看護を理解する。 <卒業時の到達レベル> 指導の下で実施できる 7. 排泄援助（おむつ） 23. 陰部の保清							
授業計画	授業テーマ 第1回 老年看護の基本、機能と役割（杉渕） 第2回 食生活、摂食・嚥下機能のアセスメントと看護（杉渕） 第3回 排泄障害のアセスメントと看護（後藤泰） 第4回 老年者のおむつ交換、陰部洗浄（後藤泰） 第5回 老年者の清潔行為のアセスメントと看護（杉渕） 第6回 高齢者のコミュニケーション（八木） 第7回 生活リズム、活動・睡眠障害のアセスメントと看護（八木） 第8回 転倒のアセスメントと看護（八木） 第9回 寝たきり予防、廃用症候群のアセスメントと看護（八木） 第10回 高齢者の生活の場（杉渕） 第11回 認知症高齢者の看護① 認知症とは（中村） 第12回 認知症高齢者の看護② 認知症の人の看護（中村） 第13回 認知症高齢者の看護③ 事例検討（中村） 第14回 災害時の看護（杉渕） 第15回 試験45分・まとめ（杉渕）					方法（形成評価等を含む） 講義 講義 講義 校内演習（A・Bグループ別） 講義 講義 講義 講義 講義 講義・グループワーク 講義 講義 グループワーク 講義・グループワーク 筆記試験		
成績評価	・方法 筆記試験 八木先生：筆記試験 30点（講義後の課題提出状況により筆記試験から減点します） 中村先生：筆記試験 25点 後藤：筆記試験 15点 杉渕：筆記試験 30点 ・基準 本校の基準に沿って評価します。							
事前課題・留意点	・事前課題 これまでの授業の振り返りをして講義に臨みましょう。 ・留意点 第4回の校内実習に関する課題や準備については、事前に担当者より説明します。							
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 大塚眞理子 カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社 堀内ふき他 ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 ・必要物品 校内実習で使用する物品のセッティングに協力してください。							
参考文献	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 六角僚子他 看護師のための認知症のある患者さんのアセスメントとケア ナツメ社 鈴木みずえ監修 3ステップ式パーソン・センタード・ケアでよくわかる認知症看護のきほん 池田書店							

授業概要

科目名	老年看護学Ⅳ	担当者	杉淵美里 後藤泰子	開講時期	2年後期	単位時間	20時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力 思いやる力 責任と役割を果たす力 看護を探究する力					
学修内容	老年病の発症・悪化により医療的処置を受ける高齢者の病状の回復・安定を目指した看護方法を、事例を通して学ぶ。また、介護する家族のエンパワーメントを理解するとともに、介護負担を軽減するための看護の方法について学ぶ。						
到達目標	1. 高齢者の治療過程における看護方法について理解する。 2. 健康障害を持つ高齢者と家族への看護方法について学ぶ。 3. 高齢者の特徴と事例の個別性を踏まえ看護の方向性を考える。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	「認知症があり大腿骨頸部骨折と診断され入院した高齢者の看護」 第1回 ガイダンス（杉淵） 第2～4回 術前の看護（後藤泰） ・事例内容確認 ・疾患の理解 ・情報収集 アセスメント 看護の検討 ・発表 第5～9回 術後の看護（杉淵） ・事例内容確認 ・治療の理解 ・情報収集 アセスメント 看護の検討 ・発表 第10回 試験45分・まとめ（杉淵）			講義 DVD視聴 講義 個人ワーク・グループワーク グループごと発表 DVD視聴 講義 個人ワーク・グループワーク グループごと発表 筆記試験			
成績評価	・方法 筆記試験60点（杉淵：35点 後藤：25点） 課題への取り組み40点（杉淵：25点 後藤：15点） 詳細は各担当者から説明します。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 学習ファイルを作成して学習を進めてもらいます。 ・留意点 事前学習・振り返りをして授業に臨みましょう。 個人で課題に取り組んだうえでグループワークに参加しましょう。 グループワークでは活発な意見交換をしましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 ・必要物品 学習ファイルは毎回持参しましょう。						
参考文献	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅰ	担当者	柳原泰子 荻須雅美	開講時期	2年前期	単位時間	30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			実践する力・責任と役割を果たす力・看護を探究する力				
学修内容	新生児から思春期、青年期までの小児期は成長発達が著しい。成長発達は自然なものであると同時に一定の法則があり、その原理原則に即している。発達の原則を踏まえ、加えて子どもが育つより良い環境を理解し、環境の一つである親や家族、地域などの社会のあり方を考えたい。そして、看護師として、健康な子どもの日常生活での関わりについて、自立に向け各段階で発達を促す支援方法を学習する。また、言語の未発達から自ら訴えることが不十分な子どもの身体的、精神的変化を早期に捉え観察するフィジカルアセスメントについても学習する。						
到達目標	1) 小児看護の理念や特質、考え方を理解する 2) 成長発達の段階と生活援助、支援の仕方を理解する 3) 成長発達の原理原則を理解し、評価の意味と方法を理解する 4) 子どものフィジカルアセスメント方法を理解する 5) 子どもにとっての家族や社会の特徴とアセスメントを理解する 【看護技術の卒業時の到達レベル】7 排泄援助（小児オムツの当て方）：演習/Iモデル人形もしくは学生間で単独で実施できる、50バイタルサインの測定・51身体計測・52フィジカルアセスメント（乳幼児の観察）：演習/Iモデル人形もしくは学生間で単独で実施できる						
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：子どもとは・小児看護の特徴と理念（柳原）			講義			
	第2回：子どもの成長発達の特徴と原理（柳原）			講義			
	第3回：乳児期の成長発達の特徴と援助（柳原）			講義			
	第4回：幼児期の成長発達の特徴と援助（柳原）			各期の発達段階の特徴と援助について、事前学習あり。また、第6回講義後にフィールドワークを予定している。			
	第5回：学童期の成長発達の特徴と援助（柳原）						
	第6回：思春期・青年期の成長発達の特徴と援助（柳原）						
	第7・8回：乳幼児期の子どもの成長発達を促す生活援助と支援 ／子どもの事故・外傷（柳原）			グループワーク・講義			
	第9回：子どもと家族の特徴とアセスメント（荻須）			講義			
	第10回：子どものアセスメントに必要な技術（荻須）			講義			
	第11・12回：子どもの身体計測とバイタルサイン測定（荻須）			演習			
	第13・14回：子どもの身体計測とアセスメント：ロールプレイ（荻須）			ロールプレイ発表：グループ毎			
	第15回：試験・まとめ（荻須）			筆記試験・講義			
成績評価	・方法 筆記試験・取り組み姿勢・レポート（柳原60％、荻須40％） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・『乳幼児の発達と保育』、『目で見える子どもの保健 予防・対応編』のDVD視聴 ・小児各期の成長・発達段階について、事前学習したものを活用して授業を行います。 ・みなさんが子どもの頃を思い出しながら、成長発達段階や環境について考えていきましょう。 ・子どもが健やかに育っていく環境を理解するために、現代の子どもに関するニュースや時事問題に関心を持ちましょう。 ・フィールドワークは、出身または近隣の保育所（保育園・幼稚園・子ども園）へ自らアポイントメントをとり、夏季休暇中に2日間訪問します。						
テキスト	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働省 ・必要物品 母子手帳						
参考文献	乳幼児の発達と保育 DVD vol. 1～3 目で見える子どもの保健 予防・対応編 DVD vol. 2 成長発達の段階と生活援助、支援の仕方を理解する ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学② メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅱ	担当者	熊谷 淳之 吉野 彰兼	増井 礼子 椎名 晃平	開講時期	2年前期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力・看護を探究する力					
学修内容	小児期は、遺伝疾患、染色体異常、妊娠や出生時の影響などにより、成人期には見られない特有の疾患がある。また、成長発達途上では身体的特徴により病態や治療が新たな問題やその後の発達に影響を及ぼす事がある。さらに、発達途上の子どもの理解力やコミュニケーション力は未熟なため、罹患した事や治療を継続する事が、その後の心理社会面に影響を与える場合もある。そのため、小児期の身体的成長の特徴を理解し、形態機能の特徴を踏まえて小児期にある代表的疾患とメカニズム、治療について理解する必要がある。看護師は、言葉で症状を訴えることが難しい子どもをよく観察・理解し、異常の早期発見、予防に努めるために病態と治療についての知識を深めていく必要がある。							
到達目標	1) それぞれの系統における代表疾患を理解する 2) 疾患の特徴的メカニズムを理解する 3) 疾患の治療について理解する							
授業項目	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）			
第1回：	新生児疾患（椎名）				講義			
第2回：	血液疾患（椎名）				講義			
第3回：	循環器疾患（吉野）				講義			
第4回：	呼吸器、消化器疾患（吉野）				講義			
第5回：	免疫疾患・膠原病・アレルギー疾患（増井）				講義			
第6回：	感染性疾患（増井）				講義			
第7回：	内分泌疾患・発達障害（増井）				講義			
第8回：	小児医療の特殊性、遺伝子・染色体疾患（熊谷）				講義			
第9回：	神経系疾患（熊谷）				講義			
第10回：	腎疾患（熊谷）				講義			
成績評価	・方法 筆記試験（熊谷30%、増井30%、吉野20%、椎名20%）、取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する							
事前課題 留意点	講義の前には、事前学習としてテキストを熟読して出席しましょう。 小児期の心身は、未熟で発達途上にあるため疾患に罹患しやすいという特徴があります。また、小児期特有の疾患や治療もありますので基本的な形態機能学、病態生理治療論などの既習科目は土台として学習して臨みましょう。							
テキスト	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院							
参考文献	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版							

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅲ	担当者	柳原泰子 荻須雅美 保健師	開講時期	2年後期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	子どもは発達途上にあり、自己表明や健康管理などの力が未熟なため、より良く育つ環境が整えられることが求められる。そのため、小児看護の対象は健康、不健康を問わず全ての小児とその家族である。看護師は、子どもたちの持つ4つの権利を守り、最善の利益が得られるよう努力する責務がある。子供たちが育つ家庭や保育園、学校、病院は勿論、地域などの様々な場に他職種が連携して活躍している。其々の場における看護の特徴と役割を学び、少子高齢社会での子育て支援などについても関心を広げたい。合わせて、小児の健全な発育のために、社会が支え護る事故防止、虐待防止、養育支援などの法律や制度について学習を深めたい。						
到達目標	1) 疾病や障がい、入院や治療が小児や家族に与える影響と看護を理解する 2) 様々な場での小児看護の必要性和役割を理解する						
授業項目	授業テーマ					方法（形成評価等を含む）	
	第1, 2回：病気・障害をもつ子どもと家族の看護（柳原）					講義・演習	
	第3回：子どもの疾病の経過と看護（慢性期・急性期）（荻須）					講義	
	第4回：子どもの疾病の経過と看護（周手術期・終末期）（大石）					講義	
	第5回：子どもと家族を取り巻く社会 一母子保健活動（保健師：寺沼）					講義	
	第6回：子どもと家族を取り巻く社会 一地域の小児保健・福祉／子どもの虐待（保健師：寺沼）					講義	
	第7回：病院における子どもと家族の理解と看護（荻須）					講義	
	第8, 9回：地域・在宅で医療的ケアを必要とする子どもと家族の看護（柳原）					講義・演習	
	第10回：試験・まとめ（荻須）					筆記試験・講義	
成績評価	・方法 筆記試験（柳原20％：保健師内容も含む、荻須40％）、演習の取り組み・レポート（柳原40％） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	皆さんの生活の中で見かける子どもや家族の様子に関心を寄せましょう。子どもに関する新聞の記事やテレビの話題に目を向け、現代の子どもたちを取り巻く環境について看護学生として考えてみましょう。						
テキスト	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ 国民衛生の動向 ・必要物品 母子手帳						
参考文献	ライフヒストリー重症心身障害児 英太郎くんの場合 DVD 目で見える子どもの保健 予防・対応編 DVD vol. 2 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学② メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅳ	担当者	柳原泰子 荻須雅美	開講時期	2年後期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・看護を探究する力					
学修内容	小児期は身体的未熟さに加え、自分の感情や意志などを十分に訴えることができず、疾病の理解もできないままに苦痛にさらされていることがある。周囲の大人や医療従事者が気づき、見守り回復を支えることが重要である。そのため看護師は、小児期に特有な疾患や症状、その発生のメカニズムや影響を理解して、家族を含め安全で安楽、安心な生活を提供できるよう、アセスメントし援助する必要がある。具体的には、小児期の疾患、治療、検査、処置に伴う影響を理解し、療養生活の中にも成長発達を促す援助方法を学習する。また、子どもと家族を支援し継続的に看護を提供できる繋がりを理解し、看護展開についてシュミレーションする。 【看護技術卒業時の到達目標】56検査の介助：演習/Ⅰモデル人形もしくは学生間で単独で実施できる,20整容：演習/Ⅰモデル人形もしくは学生間で単独で実施できる						
到達目標	1) 子どもの特徴的な症状と看護について理解する 2) 検査・処置を受ける子どもの看護について理解する 3) 子どもと家族への看護、継続看護について理解する 4) 子どもの看護過程展開を理解する						
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1,2回：子どもに特徴的な症状と看護（柳原）			講義			
	第3回：検査・処置を受ける子どもの看護（荻須）			講義			
	第4,5回：子どもの検査・処置に伴う援助（荻須）			講義			
	第6回：子どもの検査・処置に伴う援助：ロールプレイ（荻須）			演習 ロールプレイ発表：グループ毎			
	第7回：症例に必要な看護を考える（柳原）			講義・演習			
	第8回：症例に必要な看護を考える：グループワーク（柳原）			演習			
	第9回：症例に必要な看護を考える：グループワーク発表（柳原）			演習			
	第10回：筆記試験・まとめ（荻須）			筆記試験			
成績評価	・方法 筆記試験（柳原10%、荻須40%）、演習の取り組み、レポート（柳原40%、荻須10%） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・これまでの学習を十分に復習して臨んでください。 ・小児の検査・処置の演習では事前学習をもとに演習、ロールプレイを行います。 ・国家試験問題の状況設定問題などの理解に繋がる分野です。イメージしながら学習しましょう。看護計画の立案は、疾病、発達段階、看護過程などの知識の活用が必要です。3年次の小児看護実習に向けての準備となりますので果敢にトライしましょう。						
テキスト	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ						
参考文献	ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学② メディカ出版 DVD 子どもの病気と看護技術 vol.2 採血・輸液を受ける子どもへの援助 DVD 子どもの病気と看護技術 vol.3 骨髄穿刺・腰椎穿刺を受ける子どもへの援助 DVD 小児看護技術 第2版 vol.2 プレパレーション						

授 業 概 要

科目名	母性看護学Ⅰ	担当者	實石江里子 保健師	伊藤みどり 増田瑞枝	開講時期	2年前期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を探究する力		看護を実践する力		思いやる力	
学修内容	母性看護学の基盤となる概念「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」について理解し、女性の一生を通じた健康の保持・増進と次世代の健全な育成に必要な知識と看護の必要性について学ぶ。多様な性の捉え方を理解し、性と生殖に関する倫理的課題について考えていく。母子を取り巻く現代の社会的変化をふまえた母性・父性・親性について、またよりよい母子関係を育むために必要な知識について学んでいく。							
到達目標	1 母性看護の概念が理解できる。 2 人間の性と多様な性の捉え方について理解できる。 3 ライフサイクル各期における対象の特徴と看護の必要性が理解できる。 4 母性看護の倫理について自己の考えをグループ間で共有できる。 5 母子保健事業の実際を知り現状と課題が理解できる。 6 母性・父性・親性・母子関係・愛着形成について自己の考えを持つことができる。							
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)	
	第1回	母性看護の基盤となる概念 人間の性 セクシュアリティ			實石	講義		
	第2回	母性・父性・親性とは			實石	講義		
	第3回	母性とは 母子関係と愛着			實石	講義		
	第4回	女性のライフサイクルと健康 思春期の健康と看護			伊藤	講義		
	第5回	成熟期の健康と看護①			伊藤	講義		
	第6回	成熟期の健康と看護②			伊藤	講義		
	第7回	更年期・老年期の健康と看護			伊藤	講義		
	第8回	母性看護の現状と課題 母子保健事業			保健師	講義		
	第9回	母性看護における倫理的課題 出生前診断			増田	講義 グループワーク		
	第10回	学科試験 まとめ			實石	筆記試験・講義		
成績評価	・方法 筆記試験：伊藤先生（40点） 實石（40点） 事前課題（5点）、ミニレポート（15点）、授業の取り組み姿勢 ・基準 筆記試験：本校の基準に準ずる ミニレポート：授業の学びを踏まえて自己の考えを述べること							
事前課題・留意点	・事前課題： 母子・女性を取り巻く現状や問題に関するニュース・新聞記事を集め考察する。 第9回の講義は事前に指定したDVDを視聴してから講義に参加してもらいます。 ・留意点： 初めて学ぶ母性看護学です。興味関心をもって考えることを大事にしてください。 授業後はテキストの関連箇所を読み理解を深めていってください。							
テキスト・必要物品	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院 ・国民衛生の動向 厚生労働統計協会 必要物品：20P程度のポケット式クリアファイル							
参考文献	・親と子のきずなはどうつくられるか 医学書院							

授 業 概 要

科目名	母性看護学Ⅱ	担当者	實石江里子 森下倫江	久保山恵規 黒田健治	開講時期	2年前期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力			看護を探究する力		
学修内容	「子を産み育てる特性」を発揮していくために必要なマタニティサイクル（妊娠期・分娩期）にある人々の看護について学ぶ。安全な分娩を迎えるための看護に必要な、妊娠期の身体的・心理的・社会的変化を理解する。その上で妊婦及び胎児のアセスメント、妊婦の保健指導、家族を含めた看護について学ぶ。また分娩期の産婦・胎児について理解し、安全で満足度の高い分娩となるような看護について学ぶ。							
到達目標	1 妊娠期における母子の生理的変化をふまえ、母子の健康状態のアセスメントについて理解する 2 妊婦の親役割や家族の新しい役割獲得の準備について理解する 3 母子の健康保持・増進のためのセルフケア能力を高める援助について理解する 4 分娩期における基礎的知識を理解する 5 分娩期における正常な経過を理解する 6 安全で満足度の高い分娩となるよう看護者の役割を考える							
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)	
	第1回	妊娠の定義・分娩の定義 妊娠期の身体的特性①				實石	講義	
	第2回	妊娠期の身体的特性② 心理社会的特性と変化				實石	講義	
	第3回	妊娠による母体の変化と生理的ニーズの変化①				久保山	講義	
	第4回	妊娠による母体の変化と生理的ニーズの変化②				久保山	講義	
	第5回	マイナートラブルと保健指導				久保山	講義	
	第6回	分娩の要素				森下	講義	
	第7回	分娩の経過 産婦の心理・社会的変化				森下	講義	
	第8回	産婦・胎児・家族のアセスメント 分娩期の看護の実際				森下	講義	
	第9回	妊娠期・分娩期の異常				黒田	講義	
	第10回	妊娠期・分娩期の異常と看護				實石	講義	
	第11回	学科試験（45分）				實石	筆記試験	
成績評価	・方法 筆記試験：久保山先生（30点） 森下先生（30点） 黒田先生（10点） 實石（30点） 授業の取り組み姿勢 ・基準 筆記試験：本校の基準に準ずる							
留意点	形態機能学「子孫を残す」の講義内容を振り返り授業に臨んでください。（實石） テキストにどんどん書き込んだり、線を引いたり、付箋をついたりし活用していきましょう。（久保山） 講義中に説明した大切なポイントは復習し理解を深め、分娩をイメージしながら読んでいきましょう。（森下） 授業後には該当箇所のテキストを読み理解を深めてください。（黒田）							
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院							
参考文献	・ナーシング・グラフィカ 母性看護学（2） 母性看護の実践 メディカ出版 ・写真でわかる母性看護技術 アドバンス インターメディカ ・親と子のきずなはどうつくられるか 医学書院							

授 業 概 要

科目名	母性看護学Ⅲ	担当者	杉山恵美子 實石江里子	開講時期	2年後期	単位時間	25時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力		看護を探究する力			
学修内容	「子を産み育てる特性」を発揮していくために必要なマタニティサイクル（産褥期・新生児期）にある人々の生理的变化を理解し、産褥期・新生児期が順調に経過するために必要な看護について学んでいく。母子相互作用・良好な母子関係・次世代を育成するための母子を取り巻く家族への看護についても考えていく。産褥期・新生児期に起こりやすい異常とその看護についても学んでいく。自然災害が増加している現在、災害発生時に周産期の女性とその家族へ看護者としてどのような支援を行っていくか、災害時の看護についても考えていく。						
到達目標	1 産褥期の身体的・心理的・社会的特徴を理解する 2 産褥期のおこりやすい異常について理解する 3 産褥期における観察の視点を理解し、必要な看護を考える 4 新生児の生理的特徴をふまえ子宮外環境への適応に必要な看護を理解する 5 新生児の観察の視点を理解する 6 新生児に起こりやすい異常を学習し、必要な看護を考える 7 周産期の女性・家族の災害時に必要な看護について考える						
授業計画	授業テーマ 第1回 「次世代を育成する看護」ガイダンス 周産期とは 第2回 産褥期ガイダンス 産後の定義と看護の基本 第3回 産褥期の身体的変化 第4回 産褥期の心理的变化 第5回 産褥期の診断・アセスメントと看護 第6回 産褥期に起こりやすい異常と看護 第7回 新生児の生理的特徴① 第8回 新生児の生理的特徴② 第9回 新生児のアセスメントと看護① 第10回 新生児のアセスメントと看護① 第11回 新生児の異常と看護 第12回 災害時の看護 第13回 学科試験（45分）						方法 （形成評価等を含む） 講義 DVD視聴 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 小テスト 講義 小テスト 講義 小テスト 講義 小テスト GW レポート 筆記試験
成績評価	・方法 筆記試験：杉山先生（40点） 實石（50点） レポート（10点） ・基準 筆記試験：本校の基準に準ずる						
留意点	・事前課題：夏季休暇前に産褥期の看護に必要な基礎的知識の事前課題を提示します（ポートフォリオ）資料のコピーを入れるのではなく、1ページでも良いので、自分の言葉でまとめましょう。 ・留意点：母性看護学ⅠⅡの学びを活かし学習を深めていきましょう。 次世代を育成するための看護を自分ごととして捉え、学習をしていきましょう。						
テキスト	・系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院 ・写真でわかる母性看護技術 アドバンス インターメディカ						
参考文献	・ナーシング・グラフィカ 母性看護学（2） 母性看護の実践 メディカ出版 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院 ・親と子のきずなはどうつくられるか 医学書院						

授 業 概 要

科目名	母性看護学Ⅳ	担当者	實石江里子 増田瑞枝	開講時期	2年後期	単位時間	25時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力		看護を探究する力			
学修内容	「子を産み育てる特性」を発揮していくための看護を考えるために具体的な事例を用いて看護過程展開に必要な思考方法を学ぶ。妊娠・分娩・産褥期および新生児の看護は継続的に対象を捉えていく力が求められる。母性看護学ⅠⅡⅢで学んだ既習知識を統合し、対象および家族も含めた看護を事例を通して考え、3年次での母性看護実習での看護の実践へと繋げられるようにする。また妊娠期・産褥期・新生児期に必要な援助技術を安全・安楽に実施できるよう演習を通し身につけていく。						
到達目標	1 母性看護過程の特徴が理解できる 2 産褥・新生児の正常経過が理解できる 3 正常過程の産褥・新生児のアセスメントができる 4 正常過程の産褥・新生児の看護問題が明確化できる 5 母子一体の看護過程の思考の仕方が理解できる 6 母性に特徴的な援助技術を習得できる 卒業時の技術到達レベル： 7. 排泄援助(新生児のオムツの当て方), 20. 整容, 28. 新生児沐浴・清拭, 51. 身体計測(腹囲・子宮底測定)は指導の下で実施できる						
授業計画	授業テーマ					方法 (形成評価等を含む)	
	第1回	母性看護過程の捉え方 妊娠期のアセスメントと経過診断			實石	講義 個人ワーク	
	第2回	分娩期のアセスメントと経過診断			實石	講義 GW	
	第3回	妊娠期の援助技術 (レオポルド触診法・腹囲・子宮底の測定) (妊婦体験ジャケット装着してみよう)			實石	校内演習 (A/Bグループ)	
	第4回	産褥1日目までの経過診断			實石	講義 GW	
	第5回	日齢1日目までの経過診断			實石	講義 GW	
	第6回	産褥3日目・日齢3日目までの経過診断 褥婦・新生児視点			實石	講義 GW	
	第7回	褥婦・新生児 看護問題の明確化 目標(期待される結果を考える)			實石	講義 GW	
	第8回	帝王切開術後の褥婦・新生児の経過診断			實石	講義 GW	
	第9回	新生児の援助技術 沐浴 新生児のおむつ交換 衣服交換			増田	校内演習 (A/Bグループ)	
	第10回	産褥5日目・生後5日目までの経過診断 指導方法の検討			増田	講義 GW 発表	
	第11回	看護援助の実際(退院に向けて 保健指導の実際)			増田	ロールプレイ発表	
	第12回	ロールプレイ発表・および看護援助実施の評価			増田	ロールプレイ発表	
	第13回	学科試験(45分)			増田	筆記試験	
成績評価	・方法 筆記試験：援助技術に関して(25点) 課題：校内実習・ロールプレイ(25点) 各期経過診断(計50点) ・基準 筆記試験：本校の基準に準ずる						
留意点	・事前課題 校内実習前には課題を提示します。 ・留意点 母性看護学ⅠⅡⅢの学びを活かし学習を深めていきましょう。 ロールプレイ前には必要な準備を各グループで行ってください。						
テキスト	・系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 ・写真でわかる母性看護技術 アドバンス インターメディカ						
参考文献	・ナーシング・グラフィカ 母性看護学(2) 母性看護の実践 メディカ出版 ・ウェルネス看護診断に基づく看護過程 医歯薬出版株式会社 ・親と子のきずなはどうつくられるか 医学書院						

授業概要

科目名	精神看護学Ⅰ	担当者	平林千鶴 本田久美子 橋本圭子	開講時期	2年前期	単位時間	25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			実践する力、思いやる力、地域社会に貢献する力				
学修内容	心(精神)の仕組み、発達について理解し、精神の健康と保持増進活動について学ぶ。						
到達目標	① 心(精神)の仕組みと働きについて理解する。 ② 心(精神)の発達過程とそのプロセスで生じる問題を理解し、その対応を考える。 ③ 精神の健康の意義について理解する。 ④ 精神の健康に影響する因子を理解する。 ⑤ 暮らしの中で起こりうる精神の問題と、その予防、健康の保持増進活動について理解する。 ⑥ 災害時に生じる心(精神)の変化と、精神保健医療活動について理解する。 ⑦ 看護者に生じやすい心の問題とセルフケアについて理解する。						
授業計画	授業テーマ					方法(形成評価等を含む)	
	橋本	第1回	精神看護学とは何か? 精神の健康の定義			講義(シンクペシエ・ラウンドロビン)	
	本田	第2～4回	心(精神)の機能と発達 心(精神)と情緒の発達 心の健康に及ぼすストレスの影響			講義	
	平林	第5～7回	各発達段階で現れやすい精神の問題 1)乳幼児～学童期における心の特徴と問題行動について 2)思春期～青年期における心の特徴と問題行動について 3)成人期～老年期における心の特徴と問題行動について			講義・グループワーク	
	橋本	第8回	心の発達に関する主要な理論			講義(シンクペシエ・ラウンドロビン)	
	橋本	第9回	精神の健康と家族の関係性			講義(シンクペシエ・ラウンドロビン)	
	橋本	第10回	精神の健康の保持・増進と支援			講義(シンクペシエ・ラウンドロビン)	
	橋本	第11回	災害時の精神保健			講義(シンクペシエ・ラウンドロビン)	
	橋本	第12回	看護者のメンタルヘルス			講義(シンクペシエ・ラウンドロビン)	
	試験(橋本)						
	成績評価	・方法	筆記試験 課題レポート 参加態度 課題の提出状況 橋本60点 本田先生20点 平林先生20点/100点				
・基準		本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題	レポート提出(1年次の春季休暇に、指定したDVDを視聴した感想) 各講義に関する事前課題(講義前に提示します。) 平林先生:授業の要約やグループワークで話し合われた内容を振り返りシートに記載します。					
	・留意点						
テキスト・必要物品	・テキスト	・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・系統看護学講座 精神保健福祉 医学書院 ・看護が見える Vol. 5 対象の理解Ⅰ メディックメディア					
	・必要物品						
参考文献	・中井久雄・山口直彦 著:看護のための精神医学, 医学書院						

授業概要

科目名	精神看護学Ⅱ	担当者	田中賢司 村上直人 福島一成 坂田勝彦 土屋幹夫	開講時期	2年前期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			実践する力				
学修内容	精神疾患に関する基礎的知識と治療に伴う看護について学ぶ。						
到達目標	① 心身症の成り立ちと仕組みについて理解する。 ② 主な精神疾患、症状の成り立ちと仕組み、検査、治療について理解する。 ③ 精神科における主な治療に伴う看護について理解する。						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	田中	第1回	精神医療に関わる法・制度	全回講義形式で行う。			
	福島	第2～5回	精神症状と状態像 神経障害・ストレス関連障害・身体表現障害 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群 （摂食障害・睡眠障害・性同一性障害・パーソナリティ障害） 器質的精神障害 （認知症・症状精神病・精神作用物質による精神・行動障害） 心身症				
	村上	第6回	統合失調症の病態生理と治療				
	村上	第7回	気分（感情）障害の病態生理と治療				
	坂田	第8回	様々な治療における看護 （認知行動療法、生活技能訓練：SSTなど）				
	土屋	第9回	薬物療法				
		第10回	電気痙攣療法				
	試験	（橋本）					
成績評価	・方法 筆記試験 福島先生40点 村上先生30点 坂田先生10点 土屋先生20点 /100点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 夏季休暇中の課題として学習内容を提示します。 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。						
テキスト・必要物品	・テキスト ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・中井久雄・山口直彦 著：看護のための精神医学， 医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術，メヂカルフレンド社。 ・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	精神看護学Ⅲ	担当者	坂田勝彦 坂田里砂 後藤治美 橋本圭子	開講時期	2年後期	単位時間	25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			実践する力、思いやる力、責任と役割を果たす力				
学修内容	精神障害を持つ人の人権を尊重し、パートナーシップに基づく治療的関係を構築し、リカバリー（回復）に向けた看護実践に必要な基礎的知識を学ぶ。また、精神看護者として必要な姿勢を養う。						
到達目標	① 精神保健・医療・福祉の歴史の変遷および現在の動向を捉え、精神障害を持つ人が置かれている状況を理解する。 ② 精神障害を持つ人の抱える「生きづらさ」を理解する。 ③ 精神障害を持つ人を支援するための概念を理解する。 ④ 対象とパートナーシップに基づく治療的関係性を構築するための方法を理解する。 ⑤ 対象の精神的安寧を図る関わりについて体験を通して考える。 ⑥ 精神障害を持つ人への看護の基本について理解する。						
授業計画	授業テーマ					方法（形成評価等を含む）	
	後藤	第1回	精神保健・医療・福祉の歴史の変遷			講義（シンクベシア・ラウンドロビン）	
	後藤	第2回	現代社会における精神保健・医療・福祉の現状と 精神看護の課題			講義（シンクベシア・ラウンドロビン）	
	後藤	第3回	精神障害を持つ人の「生きにくさ」と回復への支援			講義（シンクベシア・ラウンドロビン）	
	坂田勝	第4～6回	精神障害を持つ人への看護の基本 1)入院治療の意味 2)精神科における看護 ①病棟環境の整備 ②リスクマネジメント			講義（シンクベシア・ラウンドロビン）	
	坂田里	第7・8回	③身体的合併症に対する看護 ④身体を通した看護ケア				
	橋本	第9～12回	パートナーシップに基づく治療的関係性の構築 1)コミュニケーションの原則・方法 2)患者-看護師関係で起こる感情体験 3)患者-看護師関係をアセスメントする （プロセスレコードの活用）			講義（シンクベシア・ラウンドロビン） 演習（シミュレーション）	
	試験（橋本）						
成績評価	・方法 筆記試験 課題レポート 参加態度 課題の提出状況 後藤20点 坂田勝彦先生 30点 坂田里砂先生20点 橋本30点 /100点 ・基準 本校の規準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 講義前に事前課題を提示します。 ・留意点						
テキスト・必要物品	・テキスト ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術，メヂカルフレンド社。 ・系統看護学講座 精神保健福祉 医学書院 ・必要物品						
参考文献							

授業概要

科目名	精神看護学Ⅳ	担当者	土屋幹夫 武田有美 橋本圭子	開講時期	2年後期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			実践する力、責任と役割を果たす力、地域社会に貢献する力				
学修内容	精神障害を持つ人の健康状態に応じた看護について理解し、リカバリー（回復）を支援する看護を学ぶ。 また、事例を用いて対象をアセスメントし、必要な看護を導き出す思考を養う。						
到達目標	① 精神障害を持つ人を理解するための観察とアセスメントの視点について理解する。 ② 主な精神症状と症状に応じた看護を理解する。 ③ 精神障害を持つ人の家族の看護について理解する。 ④ 様々な精神看護の場における看護の役割と支援について理解する。 ⑤ 事例における看護過程を展開し、看護問題を捉え、必要な看護を導き出す思考を養う。						
授業計画	授業テーマ					方法（形成評価等を含む）	
	土屋	第1～5回	対象を捉える観察とアセスメントの視点 1) 観察の目的と方法 2) 精神科アセスメントと生活状況のアセスメント 主な精神症状に応じた看護 幻覚・妄想、無為・自閉、抑うつ、躁、水中毒など 精神障害を持つ家族への看護			講義	
成績評価	武田	第6回	地域で暮らす人とは、地域で支える人とは			講義 ・ グループワーク	
	橋本	第7回	地域生活を支援するとは 事例を通して考える。			講義 ・ グループワーク	
事前課題・留意点	橋本	第8～10回	事例：統合失調症患者に必要な看護を考える			講義 ・ グループワーク	
	試験	（橋本）					
テキスト・必要物品	・方法	筆記試験 土屋先生50点 武田先生20点 橋本30点／100点 第8～10回の演習では、事前自己課題とグループワークの成果物を評価対象とする。					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
参考文献	・事前課題	第8～10回の演習に関しては、冬季休暇中の課題として提示します。					
	・留意点						
参考文献	・テキスト	・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術，メヂカルフレンド社。 ・系統看護学講座 家族看護学 医学書院					
	・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	医療安全と看護管理 (医療安全・看護倫理)	担当者	後藤治美 石川 嘉子	開講時期	3年次前期	単位時間	10/20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を探究する力		責任と役割を果たす力		看護を実践する力	
学修内容	医療の高度化・専門化に伴い医療現場はさまざまなリスクが存在している。医療者にとって安全管理は重要な概念である。講義では「医療安全」の基本的知識および看護職の責務と役割、医療現場における危険予知回避・事故防止などの安全対策の理論と方法について演習を交えながら学んでいく。						
到達目標	① 医療安全の基本的知識を理解し、医療安全教育の必要性を認識するとともに、看護・医療事故予防に必要な能力・行動について考えることができる。 ② 実際の場面や事例より、それぞれに具体的な対策を考えることができる。						
授業計画	授業テーマ 第1回 看護業務における事故の特徴と原因 第2回 医療安全の基礎 第3回 危険予知トレーニング 第4回 チームステップス・医療メディエーション 第5回 看護事故防止の考え方						方法 (形成評価等を含む) 講義・グループワーク 講義 グループワーク 講義・グループワーク 講義・グループワーク
成績評価	・方法 「看護管理」単元と合算して100点となる。看護管理50点 石川先生30点 後藤20点 参加姿勢(課題への取り組み、聴講姿勢など)・筆記試験・レポート ・基準 筆記試験:本校の基準に準ずる						
事前課題・留意点	・事前課題 講義開始前に課題を提示する。課題を基に講義を行うため、準備すること。						
テキスト	・テキスト ① 系統看護学講座統合分野「看護管理」看護の統合と実践① 医学書院 ② 系統看護学講座統合分野「医療安全」看護の統合と実践②, 医学書院						
参考文献	茂野香おる他：系統看護学講座専門分野Ⅰ「看護学概論」基礎看護学① 医学書院						

授 業 概 要

科目名	医療安全と看護管理 (看護管理)	担当者	八木 千乃	開講時期	3年前期	単位時間	10/20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力 ・ 探求する力 ・ 責任と役割を果たす力					
学修内容	看護管理の基本を理解する。 よりよい看護を提供するための資源やしぐみについて知り、組織の一員として看護管理を考える。						
到達目標	看護管理の基本がわかり、必要な資源や組織の一員としての看護管理について理解を述べることができる。						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	1. 看護管理とは 看護を取り巻く諸制度 看護職と専門性 医療制度 2. 看護ケアのマネジメント チーム医療 リーダーシップ コミュニケーション 3. 看護サービスのマネジメント キャリア形成 キャリアディベロップメント 4. 看護サービスのマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり 組織化 看護ケア提供システム 5. 看護サービスのマネジメント 労働環境 安全管理 マネジメントに必要な知識と技術			講義 講義 ワーク 講義 グループ演習 グループ演習			
成績評価	・方法 筆記試験(30点分) 出席状況を加味する ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 参加型の授業となるよう心掛けるので、積極的に授業に取り組んでいただきたい。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践 医学書院 ・必要物品						
参考文献							

授業概要

科目名	国際看護と災害看護 「国際看護」	担当者	那須 ダグバ 潤子	開講時期	3年後期	単位時間	8/20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力 ・ 思いやる力 ・ 地域社会に貢献する力				
学修内容	グローバル化する時代に必要とされる看護師の能力とは何か。本講義では、映像、資料などを手掛かりに、日本および国際社会に生じている諸問題について考えるほか、グローバルヘルスの現状と課題、国際保健政策、国際看護活動、外国人患者への看護などを学ぶ。世界の人びとの保健医療にかかわる現状を理解するとともに、国内外問わず異文化理解が重要であることを理解し、国際力豊かな看護師として成長するための基礎を養う。						
到達目標	1. 国内外での国際看護活動をするための基礎的な方法を理解することができる。 2. 世界の保健医療の現状および健康問題と、国際看護活動における看護職の役割について理解できる。 3. 世界の多様性を考慮した看護実践について、自分の考えを述べることができる。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 1. 世界の多様性、国際看護の概要 2. 異文化理解と看護			パワーポイントに沿った口演 参考資料の提示と説明 質疑応答 ディスカッション			
	第2回 3. 開発途上国と貧困 4. 看護の国際協力			映像学習 授業評価アンケートの実施			
	第3回 5. 在日外国人の看護 6. 医療通訳						
	第4回 7. ジェンダーと差別 8. グローバル化時代の看護						
成績評価	・方法 課題レポート ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 世界の動向について、ニュース、新聞から情報を得ておく。 ・留意点 グループワーク、ディスカッションを行う場合は全員が発言し、積極的に講義に参加すること。普段から国内外の複数の新聞を読み、世界の動向を把握する習慣をつけることを推奨する。						
テキスト・必要物品	・テキスト 授業中に適宜資料を提示する。 ・必要物品 パソコン プロジェクター、スピーカー DVD映写機						
参考文献	授業中に適宜資料を提示する。						

授 業 概 要

科目名	国際看護と災害看護 「災害看護」	担当者	加藤 温美	開講時期	3年前期	単位時間	12/20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力・思いやる力・地域社会に貢献する力					
学修内容	災害という突然の緊急事態に対し、人としてまた医療者として何を優先してどう動くべきかを考える。二つとして同じ災害は無いが基本のコンセプトは同じである。その学びより防ぎえた災害死の回数を目標を復興までの長い道のりを非日常に陥った被災者の為に、変化していく災害フェーズに対応しながら自分に何が出来るのか考え、どんな行動ができるのか、そしてあの日を忘れない寄り添える災害看護を学ぶ。						
到達目標	1. 災害時の基本のコンセプトCSCATTTを理解する。 2. 日本の災害医療を知り、災害フェーズに対する看護の役割を理解する。 3. 平時から自ら発信できる力、協力、寄り添う力を身につける。 4. 1次トリアージを実践により身につける。						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1回・災害の種類 日本の災害医療と災害サイクル ・CSCATTT① ・被災地の話				講義 教科書 パワーポイント		
	第2回・災害サイクルと看護ニーズ ・災害による健康被害 ・CSCATTT② ・災害急性期・病院での被災を考える				動画 質疑応答 アンケート		
	第3回・災害サイクルと看護ニーズ ・災害慢性期（復興期）の健康被害・避難所の現状 ・被災地の話				グループワーク		
	第4回・身近な物を代用した応急処置と災害における心のケア ・被災者、遺族、支援者の心境について考える ・被災地の話						
	第5回・災害医療の3T ・1次トリアージの実践とトリアージタグの記載 ・優先順位について・被災地の話				実技		
	第6回 試験・災害キーワードの振り返り						
	評価・方法 筆記試験及びレポート評価・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題・留意点	・事前課題 指定したページのテキストの熟読。アンケート ・留意点 災害に対応できる力は平時からの行動ができていないと災害時にはできません。その中で、できない事を恥じる事なく発信できることを災害時にも繋げられるように、質問しながら授業を進めていきます。皆さんの事も毎回アンケートをとっていきます。私の被災地での経験も伝えていきます。						
テキスト・必要物品	・テキスト ナーシンググラフィカ ・必要物品 第4回 スーパーの袋、長袖のパーカー 第5回 秒付き腕時計（持っている人のみで可） 練習用トリアージタグ（全員分）この日は全員動きやすい服装で						
参考文献	1. DMAT標準テキスト（改定第2版）へるす出版 2. 東京くらし防災 東京都 3. 災害現場のトリアージと応急処置 日本看護協会出版会 4. 多職種連携で支える災害医療 医学書院 5. 日本DMAT養成研修資料 6. 被災地で活動するナースの為に災害派遣シミュレーションQ&A						

授業概要

科目名	看護研究	担当者	後藤 治美	開講時期	3年次後期	単位時間	30時間 2単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を探究する力:これまでの学習経験を踏まえて自己の看護観を明確					
学修内容	看護専門職者として質のよい看護の提供を追及するための研究の必要性を学ぶ。研究における倫理的態度について理解し、自己の看護実践を振り返り、自己の課題と対峙しながら行うことで、その人に合った看護を追求していくための基礎知識を学ぶ。						
到達目標	1. 看護研究の意義と必要性を理解し、研究への興味関心を高める 2. 看護研究の分野と研究方法について知る。 3. 文献学習の必要性について理解する。 4. 看護研究におけるモラルと倫理的配慮について考える。 5. ケーススタディの意義と方法を学ぶ。 6. 3年次領域別実習の中からエピソードを記述し振り返ることで、糸口となる問題を認識し科学的に論じる。 7. 問題の科学的解明に向けて、適切な文献を基に考察する。 8. ケーススタディの一連を学び、収録・抄録を作成し、他者に伝えるよう発表する。						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	＜研究の基礎＞						
	第1回	看護研究の目的・意義			講義		
	第2回	リサーチクエストと文献レビュー			講義・演習		
	第3回	看護研究における倫理的配慮			講義		
	第4回	ケーススタディの目的・意義と構成			講義		
	第5回	ケースレポートのテーマを考える			講義・演習		
	第6回	研究計画書の作成(ケーススタディ計画書)			演習		
	第7回	研究計画書の作成(ケーススタディ計画書)			演習		
	第8回	ケーススタディ:論文作成上の留意点			講義		
第9～14回	実習体験に基づきケーススタディに取り組む 発表用パワーポイント作成			個人ワーク・指導教員と意見交換 筆記試験・個人ワーク			
第15回	試験 / ケーススタディ作成 ケーススタディ発表			筆記試験・個人ワーク			
成績評価	・方法: 筆記試験(30%:研究の基礎) ケーススタディ(70%:担当教員) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 臨地実習での自己の課題やエピソードなどケーススタディの基となる事を記述しておく。 研究論文に触れ、論文の構成や記述の方法について慣れておく。 ・留意点 ケーススタディは、自己の実践を振り返り、看護における自己の課題や改善点を明確にする事が求められるので、真摯に自己と対峙する姿勢が求められる。そのためにも、研究における倫理的な態度について理解を深めることが重要である。						
テキスト・必要物品	・テキスト 坂下玲子:系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 森田夏実他:看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 ・必要物品 開始後に指示する文献						
参考文献	南 裕子編:看護における研究、日本看護協会出版会 川村佐和子編:ナースンググラフィカ19 看護研究 メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	総合看護実践	担当者	西川はるみ 後藤 治美	開講時期	3 年次後期	単位時間	30 時間 ／1 単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力 ・ 看護を探究する力					
学修内容	既習の知識、技術を活用し、自己の看護観を大切にしながら、受け持ち患者の状況に合わせた看護実践をすることと、複雑な状況下で優先順位を判断しながら実践できる能力を養う。この学習過程により、看護専門職となる人としての自己の看護実践の課題を明らかにし、臨床現場へ出る自分をイメージすることができるようにする。						
到達目標	1. 事例検討から、リアルな現場をイメージし、患者に適した状況・判断について考え、最良の看護実践をする力を養う。 2. 看護実践者としての自己の傾向に気づき、今後の課題を明確にする。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
第1～3回：	事例の看護を考える（西川）			プロジェクト学習の方法で グループ学習を進めていく			
第4～6回：	急性期の看護と実践（西川）			シミュレーション・ディスカッション			
第7・8回：	複雑な状況下での看護（後藤）			シミュレーション・ディスカッション			
第9回：	退院のための看護の準備（後藤）			グループ学習			
第10・11回：	退院のための看護の実践（後藤）			シミュレーション・ディスカッション			
第12回：	評価方法の説明とプレゼンテーションの準備（後藤） ＊客観的臨床能力試験（OSCE）・プレゼンテーション			凝縮ポートフォリオ作成			
第13、14回：	客観的臨床能力試験（OSCE）（後藤）			OSCE			
第15回：	課題解決についてのプレゼンテーション（後藤）			プレゼンテーションの準備と発表			
成績評価	・方法 ワークの成果物15%、OSCE70%（実技55%、リフレクション15%） プレゼンテーション15% 合計：100点						
事前課題・留意点	・事前課題 事例に関する学習は、個人で計画的に行う。 ・留意点 総合看護実践は、現場のリアルな状況をイメージし、事例の複雑な状況に対応した看護を、どのように判断し、行動していくかをプロジェクト学習という方法で学んでいく。授業方法については、随時情報提供していく。 ※授業や演習などで、相談がある場合は授業担当者の教員に報告・連絡・相談にきてください。						
テキスト・必要物品	・テキスト 統合科目であるため、今まで学習したことすべての積み重ねである。特に指定するテキストはない。 ・必要物品 今まで培った知識と技術。						
参考文献							